



80 年前の伊勢崎空襲では、9,000 個以上の焼夷弾が投下されました。その中のごく一部は、当館に寄贈や寄託されており、企画展「終戦前夜の伊勢崎空襲」では、もちろん焼夷弾も展示予定です。焼夷弾はすべて焼き尽くす兵器です。伊勢崎で起きた空襲の実態を知っていただく機会となるよう、6月13日（金）から開催いたします。

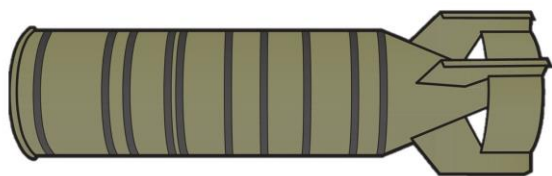
山王町に投下された焼夷弾



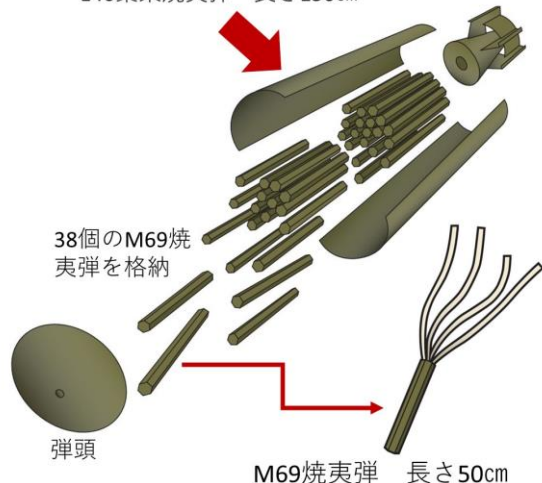
E46集束焼夷弾弾頭



M69焼夷弾



E46集束焼夷弾 長さ150cm



38個のM69焼夷弾を格納

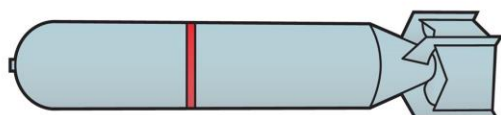
弾頭

M69焼夷弾 長さ50cm

豊城町に投下された焼夷弾



M47焼夷弾



M47焼夷弾 長さ120cm



令和7年度企画展
終戦前夜の

2025

6/13(金) ▶ 8/31(日)

伊勢崎空襲



松本喜堂画 焼夷弾で燃える伊勢崎高等女学校と鉄工所（市内宗高町）

投下された焼夷弾は 9,574 個

昭和 20 年 8 月 14 日午後 5 時過ぎ、日本から南に約 3,200 キロメートル離れたマリアナ基地から大量の焼夷弾を搭載した米軍の大型戦略爆撃機 B-29 が離陸しました。同日午後 11 時、伊勢崎市内は警戒警報が発令され、15 日午前 0 時 8 分から 2 時 15 分まで、86 機に及び B-29 によって大量の焼夷弾が投下された伊勢崎市街地を中心に、各地で火災が発生しました。

焼夷弾は通常の爆弾と異なり、火災を発生させ都市を壊滅させる兵器で、ゲル状にしたガソリンが使用されています。伊勢崎空襲で使用された焼夷弾は、M69 焼夷弾を 38 個格納した E46 集束焼夷弾 1,716 個（M69 焼夷弾は 65,208 個）、M47 焼夷弾 7,858 個の 2 種類が使用され、また 27 個の爆弾も使用されています。E46 集束焼夷弾は空中で解束されて M69 が分散して広範囲に被害を与え、M47 焼夷弾は大きな爆発力をもって被害を与える焼夷弾で、日本の木造家屋を焼き尽くすよう組み合わせて使用されていました。

伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）6月13日は月曜日以外開館しています。

開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分） 群馬県伊勢崎市西久保町二丁目98

電話 0270-63-0030 FAX0270-63-0087 Email: siryokan@city.isesaki.lg.jp 入館無料